

『Mind Charging』

第 193 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 21 日

落合博満の名言



最終的にこうなってくれればいいという形を示し、
その人にあったやりやすい方法を探す。
方法論は何も一つだけではない。

『名選手、名監督にあらず』という言葉がありますが、それを覆した人物だと思います。今回の言葉は落合氏が監督時代のものだと思いますが、選手時代にも同じような考え方でトレーニングや練習を積んでいたように感じます。

自分が設定するゴールにどのように辿り着きたいですか？という質問に対する答えの第一位はおそらく『最短距離で辿り着きたい』ということだと思います。ゴールした瞬間の達成感是非常に気持ちがいいものです。できるだけ早くその瞬間を感じたいと思う心理は自然だと思います。『ゴール→達成→成功体験』です。私たちの時間は無限にあるわけではありませんので、より多くの成功体験を積むという意味では最短距離でのゴールは重要です。しかし、いつの間にか『最短＝最良』と誤っていませんか？最短距離でのゴールをイメージすると『全くミスがない』ということが挙げられます。テストのように答えるべき全ての問題の内容や数、ゴールと呼ぶべき“合格点”が決まっている場合、最短距離とは全ての問題に答える満点よりも、ギリギリ合格点になる数だけ答えるということになります。そういう意味で私が今回の言葉で一番感じたことは、『方法論は一つではないが、ゴールの仕方も一つではない』ということです。ベターなゴールを目指すのか、ベストなゴールにこだわるのか。ゴールすることを求められる問題の内容によってもゴールに対する考え方は様々だと思います。そこに向き合うことを“面倒”だとか“大変”などと捉えるか、“自分の可能性を広げるチャンス！”と捉えるのか。正智深谷高校のみなさんはチャンス探しが得意なチャレンジャーであってほしいと願っています。(編集委員：入試広報室 鈴木)

落合 博満(おちあい ひろみつ、1953 年 12 月 9 日 -)は、秋田県南秋田郡若美町(現：男鹿市)出身の元プロ野球選手(内野手、右投右打)・監督、野球解説者。選手時代は 1979 年から 1998 年にかけてロッテオリオンズ・中日ドラゴンズ・読売ジャイアンツ(巨人)・日本ハムファイターズの計 4 球団に在籍した。ロッテ時代には史上 4 人目かつ日本プロ野球史上唯一となる 3 度の三冠王を達成した。また 20 世紀最後・昭和最後の三冠王達成者でもある。(Wikipedia 参照)